

学ぶ 育てる

英語が苦手な学生 就職に不利なの？

社内公用語化の動き…採用時はさほど重視されず

大学3年生の就職活動が始まった。ファーストリテイリングや楽天のように、日本企業でさえも社内の公用語を英語にする時代だ。英語が苦手な学生は就職に不利なのだろうか？

【井上俊樹、写真も】

新 教育の森林

首都大学東京(本部・東京都八王子市)3年の橋本太郎さん(21)は、2年生の初めから調布市にある英会話学校大手の「ベルリッツ」に通い始めた。レッスンは週に2回のマンツーマン。初級クラスからスタートしたが、通学の電車の中でもリスニング学習を続け、上級の手前まで上達。夏に英国旅行した際も全く困らなかつた。就職活動も本番を迎える。橋本さんは、英語を生かして商社やメーカーなど海外で活躍できる企業で働くのが目標だ。



「就職難で少しでも英語力を磨こうと入校してくる学生が増えている」と中川さん。英の1.5倍に増えたという。「就職難で少しでも英語力を磨こうと入校してくる学生が増えている」と中川さん。英

大学も企業も変わるべきだ

中嶋嶺雄・国際教養大学長



各国の企業が求める英語力を社員が満たしているかどうか調べたスイスの研究機関「IMD」の09年調査によると、日本人社員の語学力は、欧州やアジアなど57カ国中55位。韓国(34位)、中国(42位)に後れを取っている。就職活動も含め、日本の学生の英語力はどうかよくむべきなのか。すべての講義を英語で

「知の鎖国」状態が続けてきた。英語教育も、文法的に正しいか、つづりや発音が間違っていないかが中心。英文の本を読んで少しずつ訳してテストをして終わり。これはコミュニケーションのツールにならない。生き生きとした英語力を着けさせる努力が大学にも足りなかった。4月だけの入学制度や日本語だけの授業を改め、一定レベルの英語力を卒業要件とするのも考えるべきだ。日本の学生たちも必ずしも

学校と私

6歳からバイオリンを習っていたのですが、中学3年の時、小沢征爾さんが指揮する桐朋学園の学生オーケストラの演奏を聴いて「この学校へ行きたい」と心に決めました。1日7時間以上バイオリンを練習し、東京でのレッスンを受けるために学校を休む日もありましたが、中学の先生方は温かく見守り、励ましてくださいました。

バイオリニスト 森 悠子さん



「かごの中の鳥」より野鳥に

吉田秀和先生が「天気

呼吸の間にも音やフレーズの間に、間をどう感じるかは音楽でも重要だ。長らく音楽教育に携わ

社会から閉ざされた、かごの中の観賞用の鳥より、多少羽が汚れても、自分のくちばしで餌を捕まえて大空をたくましく飛ぶ野鳥のように育ってほしいと思うのです。

もり・ゆうこ 1944年大阪府出身。桐朋学園大卒。仏リヨン国立高等音楽院助教授、ミルースベルト大シカゴ芸術大音楽院教授を歴任。長岡京室内アンサンブル音楽監督。くらしき作陽大特任教授。

司馬 作家の、小学に書いた君は、20世紀は怖の念を人間は本生かされう考えを、とつ々の「自おな態度って息を感じ、そとを子供先月、た国連年回締約国

小合同学生にあっては、週間の論、年生、い、7、はよ